

考えを伝え、深めあう道徳教育の充実  
～チームで考える「生徒が主体的に取り組める道徳の授業」～

1 テーマ設定の理由

教育目標 確かな学力と豊かな心、健やかな心身を持った生徒を育てる

- めざす生徒像
- 確かな学力を持ち、それを活用しようとする生徒
  - 互いに違いを認め合い、自信を持って活動できる生徒
  - 郷土に誇りと責任を持ち、夢や希望を語ろうとする生徒

本年度は3年生担任、音楽主任、美術主任、道徳主任を担当している。担任している3年1組の生徒たちとは1年生からの持ち上がりで3年間関わりがある。2クラス編成のため、常に学年全体に目を配りながら両クラスが足並みを揃えて総合的な学習の時間はもちろん、道徳や学活を行ってきた。また、相棒である2組担任は昨年度新採用の先生で、初の3年生担任ということもあり、進路を含め、日常の細かな業務まで学年主任と共に日々綿密に打ち合わせをしながら進めている。学級経営の柱として、この3年間、構成的グループエンカウンターやアサーショントレーニングなどを継続して行い、よりよい学級集団づくりを行ってきた。そして、昨年度後期より、道徳の教科化を見据え、生徒たちがより主体的に取り組める道徳の授業を目指し、学年で授業内容を検討して進めてきた。本年度は、道徳主任として県中教研の発表を行うことになり、さらに、わからない部分の多い道徳の教科化に向けて研鑽を積まなくてはならない立場となった。そこで、昨年度の実践を踏まえ、本校の今年度の研究の柱でもある「考えを伝え、深め合う道徳教育の充実」をテーマに設定することにした。20歳代の学年の先生と道徳の授業を共同研究し、ローテーションで道徳の授業を行い、40歳代の研究主任、50歳代の教務主任、学年主任にアドバイザーをお願いすることにした。ミドルリーダーとして、道徳主任として本校の道徳の活性化に貢献できることは何かを考え、実践したい。

2 今年度の取組み

(1) 本校の現状

◎前期学校評価からの考察される本校の現状（特に顕著な項目を抜粋）

■まじめな学習態度

No.	質問項目	H28 後期	H29 前期	増減
1	授業中、先生の話や友達の発表をしっかりと聞いている。	96.7	97.7	+1.0
2	授業中、自分の考えを積極的に発表している。	54.9	63.2	+8.3
4	毎日、読書をしている。	65.6	87.2	+21.6

■教師に対する高い信頼感

8	先生は、授業内容を一生懸命教えてくれる。	96.7	99.2	+2.5
9	先生は、質問や相談をするといいねいに対応してくれる。	95.9	93.2	-2.7
10	先生は、自分の良い点やがんばったことを認めてくれる。	91.8	94.0	+2.2

■体験活動、ボランティア活動の充実

24	自分は、 <u>地区や公民館の行事・活動に（ボランティアとして）進んで参加交流している。</u>	63.1	77.4	+14.3
----	--	------	------	-------

■道徳の時間の取組みおよび生徒の自己肯定感

6	道徳の時間には、考えを深めることができている。	94.3	86.4	-7.9
11	自分には、よいところがあると思う。	78.7	74.2	-4.5
17	自分には、何でも相談できる友達や先生がいる。	88.4	84.8	-3.6

考察

◎良好な点

- ・読書の習慣の定着・先生や友達の発表を聞く態度・教師への高い信頼
- ・郷土ボランティア活動への参加の向上

△見えてきた課題

- ・先生への質問や相談への対応→「個に応じた学習」の充実
- ・道徳の時間の学習課題の設定や授業展開 ・自己肯定感が低い生徒が多い

昨年度後期と比較すると「道徳の時間には、考えを深めることができている。」と回答した生徒が減少していることや、生徒が「自分には、よいところがあると思う。」「自分には、何でも相談できる友達や先生がいる。」といった自己を肯定的に理解したり、他者の思いや考えを理解したりする項目が低いことから、より一層の道徳教育の充実が必要であると考えられる。自分の価値と他者の価値との違いや共通点などを比較し「考える道徳」「議論する道徳」となっているか、生徒の発達段階に応じた題材の選択、学校行事や他教科とリンクした教科横断的学習などの充実が図られているかを2学期の研究の重点項目としていきたい。 (本校研究紀要より抜粋)

以上の結果を踏まえ、道徳の教科化にむけて学校全体として、研修会への積極的な参加（年間2回以上）と年間一人1回以上の道徳の授業公開に取り組むことになった。2組は6月の、1組は11月の指導主事訪問における道徳授業の実施のための研究や日々の道徳授業の教材研究を実施することにした。また、学校全体の取組みに加え、8月に行われる県中教研の発表に向け、道徳部会の学習会や研究会、夏季〇〇中学校区研修会での道徳に関する研修、モラロジー主催の道徳研修会に参加した。

(2) 取組みの経過

①5月 3年2組〇〇教諭による道徳授業の指導案検討会

参加者 3名

内容 ホームレス問題を取り上げ、4-(3)公正、公平な社会について考えを深めるための授業づくり。自分自身もありがちなのだが、教材ありきになってねらう価値項目が何か明確ではない。使用するDVDなどの使い方も工夫が必要。

②6月 3年2組〇〇教諭による道徳のプレ授業（3年1組で〇〇教諭が授業）

参加者 3名

内容 プレ授業の参観の後、振り返り。DVDの視聴時間が長く、自分自身の考えをまとめる終末の時間が確保できない。〇〇教諭のアドバイスで使用したホームレスに関する張り紙に

ついて考える部分は生徒が活発に意見を交換していた。

③ 8月 モラロジー主催の道徳研修の報告会

参加者 3名

内容 道徳の教科化について

④ 8月 県中教研での発表および研究会に参加

→教科化に向けての報告を10月の校内研究会で行う。現時点では中学校の教科化に関する具体的な資料は未発表のため小学校向けの資料を参考に伝達。

⑤ 11月 3年1組道徳授業の指導案検討会

参加者 3名

内容 話し合いの活性化にジグソー法を取り入れようとしたが、話し合う必然性がないのではというアドバイスを受け、指導案の流れを再構築した。

⑥ 11月 3年2組でのプレ授業（3年2組でミドルリーダー養成研修受講者本人が道徳授業）

参加者 2名

内容 プレ授業参観の後、振り返り。導入の部分で資料の読み取りに時間がかかってしまった。どうしてもまとめの部分に到達せず授業が1時間で完結しない。

時間割の関係で参観していただけなかった3名の教諭からアドバイスをいただく。その後〇〇教諭ともう一度練り直す。

⑦ 11月 指導主事訪問での道徳授業（3年1組でミドルリーダー養成研修受講者本人が道徳授業）

参加者 3名

内容 改善した授業を行う。前回よりも時間配分は良好。生徒の思考も深まりがあった。

しかし、それでも最後のまとめの時間が十分に確保できない。道徳の教科書を使い授業をするようになることを考えると、資料をどう扱うか、何時間配当にするかなど課題が残る。

⑧ 12月 〇〇中学校での県中教研道徳研究会に参加

→〇〇教諭に報告。そこで行われた実践を2月に追実践する予定。

(3) 取組みの成果・課題

11月に行った、指導主事訪問での道徳授業を具体的に紹介する。本実践は、〇〇教諭と共同研究し、価値項目に迫るためにどのような切り口で読み物資料を扱うか、生徒たちが考えを伝えあい深められるような発問や場の工夫をどうするかなどを検討し、指導案検討に加え、プレ授業を2組で行い、その反省を生かして当日の1組の授業を行うという流れで行った。教材選択においては〇〇教諭に相談し、指導案検討では、2名の教諭と流れを確認し、最終段階で生徒たちが考えを伝えあい深められるような発問や場の工夫として適しているかアドバイスをいただいた。以下、本授業の学習活動を掲載する。

主題名 内容項目2－(6) 他者の善意に対する感謝

資料名 帰郷（「私たちの道徳」文部科学省）

時配	学習の流れと生徒の活動	教師の支援と評価 (○)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「感謝の気持ち」について考えを深めることを知る。</li> <li>・最近「ありがとう」と思った場面を思い出しワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の具体的な場面を思い出して記入するよう助言する。</li> </ul>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料「帰郷」を読み、それぞれの登場人物の思いを考える。</li> <li>・主人公の状況を把握し、それぞれの登場人物の思いを知る。</li> <li>○主人公が周りの人たちからの善意や支えに対してどのように感謝の気持ちを表し、応えるとよいかを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分なら「東京で暮らす」か「故郷に戻る」のどちらを選択するだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なら「東京で暮らす」か「故郷に戻る」のどちらを選択するかを個人で考える。</li> <li>・ワークシートに自分の意思を示し、その理由を書く。</li> <li>・班で意見を交換する。 〈予想される生徒の意見〉</li> <li>・母親にとって、母親のことを思い、支えてくれる人々がいる K 町で過ごすことが最もよいと思うから、故郷に帰る。</li> <li>・せっかく俳優として仕事ができるようになってきたのだから東京で暮らす。精一杯自分のやるべきことをすることで応援してくれている母の思いに応えたい。</li> <li>・東京で暮らし、支えてくれるおじさんおばさんや地域の人と話し合い看病をお願いする。しかし、任せきりにするのではなく連絡をしたり帰ってきたりして自分のできることをしたい。</li> <li>・班で出た意見を発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>優しさに包まれ、柔らかい光が当たった山々を見ながら主人公はどんなことを考えていただろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈予想される生徒の意見〉</li> <li>・久しぶりに帰郷し、母やおじさんおばさん、この町の人々に支えられて今の自分がいると気付いた。だからこそ、どちらかを選択して、自分ができることを精一杯やらなければならぬと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や図を利用して人間関係を示し、資料の内容を端的に理解できるようにする。</li> <li>・主人公が母親の看護をどうすべきかを考えて悩む場面で止め、主人公の心情に迫らせる。</li> <li>・選択した理由をじっくり考えて書くように促す。</li> <li>・ホワイトボードを各班に配り、ネームプレートを貼って自分の意思を表示するよう伝える。</li> <li>・母親の思いや主人公の東京における暮らし、故郷の人々と主人公親子との関係など、様々な視点から考えるように、机間指導しながら考えを揺さぶるような声かけする。</li> <li>・選択した根拠を伝えるよう促す。</li> <li>・班で出た意見をまとめるのではなく、どんな意見が出たかを紹介するように促す。</li> <li>・まだ、どうすべきか結論を出せていない主人公が、温かい気持ちで一先ず東京に帰ることができたのはなぜかを考えさせ、どちらを選択しても感謝の気持ちを持って誠実な行動をとることが大切であることを押さえる。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの生活を振り返り、自分を支えてくれている人々を思い出し、感謝の気持ちを持つ。</li> <li>・普段の生活を思い出し、自分は多くの人々に支えられていると感じることについてワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの人に支えられて今があることに気づき、感謝の気持ちや今後自分がどう行動するとよいか考えられたか。(ワークシート)</li> </ul>

前期の学校評価の中で、昨年度に比べて低い傾向にあった「道徳の時間の取組みおよび生徒の自己肯定感」に関する項目であるが、学年別データによると、3年生は、前年度後期よりも若干の減少はあるものの90%近くの生徒が肯定的に捉えていた。さらに、先日行われた後期学校評価では、3項目の内、全ての項目でポイントがアップしていた。これは、学年で情報を交換し合い、生徒の実態に合わせ、学活では構成的グループエンカウンターなどを取り入れてよりよい集団作りを行い、道徳では、担任同士が協同で授業研究を行い、教材研究にも力を入れてきた結果であると考えている。また、昨年度から道徳に関しては学年で教材研究を行うことを柱としてきた。今年度は、新採用2年目の〇〇教諭が実践したい教材を提案し、意欲的に教材研究されている姿があったり、「帰郷」の授業の後には、人権集会や親子研修会で障がいを持つ方と生徒が接する機会に合わせ、障がい者の方が多く勤めているチョークの会社を題材に授業を行ったりと学校行事とリンクした取組みも実践することができた。課題としては、これだけの準備を進めるには時間がかかり、また、複数の教員が時間を合わせて打ち合わせを行うことにも限界があるということだ。ベテランは本校の規模であるといくつもの役を持ち、会議や出張も多い。若手は放課後も部活動指導があり担当教科の教材研究や研修に費やす時間も多し。私自身も放課後は部活動指導に加えて教科の授業の準備や進学事務、若手が対応しきれない生徒へのフォローがあり、さらに、子どもが小さいために帰宅時間は死守せねばならない。教材研究はどうしても自宅で行うことになる。今回は家庭にかなり負担をかけて捻出した時間の中で話し合いを重ねてきた。働き方改革と叫ばれる中、今後は、いかに勤務時間の中で教員同士が議論できる時間を確保していくかも考えていかなければならない。

### 3 今後の展開

今回の実践では、ベテランの先生方にチームに参加していただき、積極的にアドバイスをもらったことで、未熟な部分を成長させたり、認めていただくことで少し自信がついたりプラスの効果があったと実感している。さらに、若手教員と一緒に実践したことで、フレッシュな感覚と自分とは違った視点での教材選択など一人では得ることのできない情報が得られたことも大きな収穫であった。来年度は、いよいよ中学校も道徳の教科化に向けて具体的に動かさなければならない。道徳の授業での学びは、学校教育の根底に流れるものであると考える。そのため、道徳の授業の充実が学校教育において必要不可欠な要素である。今回は、学年内での実践が中心であったが、他学年の道徳の授業や全校道徳、親子道徳など他校での実践を参考にしてさらなる充実を図りたいと考えている。その際、様々な経験、年齢、考え方の教員が、チーム学校の一員として「主体的・対話的で深い学び」を実践し、多面的・多角的に物事を考えていく集団であり続けられるように努力し続ける必要がある。同年代の教員が少なく、ベテランの先生方が引退され、若手がどんどん増えていく現状にとてつもなく大きな不安を感じることもある。しかし、私たちの世代が、ベテランの先生方と若手をつなぐ役割を担い、自分自身を成長させるとともに後輩の育成も意識していかなければならないと痛感している。